

平成29年度 県立水海道第一高等学校 自己評価表

目指す学校像	<p>「至誠」「剛健」「快活」の学校づくりを積極的に推進する。</p> <p>社会人として求められる確かな学力や人間性を身につけさせるとともに、自己の将来を見つめた職業観・勤労観に基づく進路実現を支援し、開かれた地域貢献を目指して、各界のリーダーたらしとする人材の育成に努める。</p> <p>1 生徒・教職員、共に学び続ける学校 2 生徒・教職員の信頼関係が構築された学校 3 懇切・丁寧な指導・きめ細かな指導を実践する学校 4 一人ひとりの個性に応じた多様な進路実現がはかれる学校</p>		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>○「校内相互授業参観」や「学力向上推進事業」に係る研修を通し、その時期・その時に身につけるべき知識・技能を着実に習得させられるよう、授業改善と指導技術の改善を図り学習指導の充実に力を入れてきた。しかし、「年次+2時間」の家庭学習時間を確保できる生徒が少ないなど課題もある。主体的に学習に取り組ませるさらなる工夫が必要である。</p> <p>○様々な大学や研究所、研究機関を訪問することで、生徒の進路意識が向上し主体的な将来設計ができるようになってきた。さらに高い目標を設定させ、それを家庭学習時間の増加につなげていくことが課題である。</p>	学習指導の充実	<p>① 生徒一人ひとりが自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動し、みなと協働して問題をより良く解決しようとする能力を育成する。</p> <p>② 「授業第一」を徹底し、学ぶ楽しさ、喜びを実感できる授業を展開する。そのために少人数指導や習熟度別指導などきめ細かな指導を徹底する。さらに言語活動を充実させ、教科・科目等の枠を超えた横断的・総合的な探求活動の質的な充実を図る。</p> <p>③ 教材研究、相互授業参観、先進校視察、授業研修等を通して「学び続ける教員」として強い自覚を持ち、常に指導法の改善を実践し生徒の学習意欲を高める「授業力の向上」に努める。さらに学習の深化をもたらし評価や考查問題等の研究に努める。</p> <p>④ 家庭学習時間の確実な確保(年次数+2時間)を徹底するとともに、学校での自習スペースや教室での居残り学習等を奨励することで、互いに切磋琢磨する環境を作る。さらに生徒一人ひとりの希望と適性に応じた主体的な学びを支援する手立てを講じる。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>
<p>○年間5回の面談週間に加え、日々のコミュニケーションを通して教員と生徒との信頼関係がしっかりと構築されている。</p> <p>○メンタルヘルスに課題を抱えている生徒が増えつつあることから、スクールカウンセラーの活用はもちろん、外部機関と連携するなどより充実した支援体制を整える必要がある。</p>	キャリア教育の推進	<p>⑤ 教科指導、キャリアガイダンス等系統的・組織的なキャリア教育を実践し、生徒一人ひとりが将来に対して明確な動機付けができるように努める。</p> <p>⑥ 個々の生徒の進路希望、学力の推移及び今後の発展性等を常に把握しながら、最後まで高い目標に挑戦する態度を育成し、進路決定率90%以上を達成する。今年度は国公立大学70名以上、難関私立大学30名以上の合格を目指す。</p>	<p>B</p> <p>B</p>
<p>○生徒会活動・部活動は活発である。生徒の高校生活を充実させるために、さらに自主的・自立的な活動を推し進めたい。</p>	心の教育の推進	<p>⑦ 「道徳」や総合的な時間を通して、人間として在り方・生き方の教育を推進し、自らを律しつつ、友人と協調し、他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性を育む。</p> <p>⑧ きめ細やかな面談指導を通して生徒理解に努めるとともに教員と生徒の信頼関係の構築を図る。スクールカウンセラーとの連携を密にし、心的に課題を抱える生徒に対する支援の充実を図る。</p>	<p>B</p> <p>A</p>
	健やかな身体を育む教育の推進	<p>⑨ 部活動やホームルーム活動、学校行事を通して、たくましく生きるための健康や体力を育むとともにより良い人間関係を構築する。生徒会活動や部活への積極的な参加を促し、部活動加入率80%以上を達成し、高いレベルでの学業と部活動の両立を目指す。</p>	<p>A</p>
	地域との連携の推進	<p>⑩ 学校説明会、ホームページやスクールガイド、「泰山木」等を通して情報を積極的に発信して「開かれた学校づくり」に努めることで、保護者、卒業生や地域社会との連携強化を図る。</p>	<p>A</p>

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科指導		生徒に自学自習を求める指導の工夫に努める。	自主研修や相互授業参観を通して、生徒の興味・関心を高める指導方法や授業内容についての工夫・改善を図る。さらに生徒の目標実現を支援する教育課程の編成を研究する。 ①②③	B	B	・新テストを視野に入れた教育課程の編成に努めるとともに、計画的な校内相互授業参観および、中学校での授業参観等を通じた授業の改善。 ・個々に応じた適切な課題の提示。
			授業時の観察、調査結果の分析、日々の面談活動を通して、基礎的・基本的な学力の定着の程度と家庭学習の状況を把握し、自学自習を支援して応用力の育成を図る。 ①②③	B		
教科	国語	国語を適切に理解し、表現する能力を育成する授業を実践する。	観点別学習状況評価を充実させ、学習意欲と確かな学力の向上を図る。 ①②③④	B	B	・学習意欲と確かな学力の向上 ・能動的学習を導く授業づくり ・知識を活用する思考力の育成 ・授業の効率化 ・模試の効果的な活用方法 ・記述対応のための時間の確保 ・大学入試共通テストを意識した定期考査の作問 ・理系生徒の古典（主に漢文）のケア
			授業形態を工夫し、生徒の能動的な活動を促す場面の設定を行う。 ①②③	B		
			既習教材の要約を通じて、文章構成を意識して評論文を読解する力を養う。 ①②	B		
			問題演習を行い、文法や単語の知識を解釈に活用する力を養う。 ①②	A		
	地歴公民	アクティブ・ラーニングを実践し、現在の活動内容の深化を図る。	視聴覚教材を積極的に活用し、授業の効率化と授業内容の多様化を図り、生徒の学習意欲を高める。 ①②③	B	A	指導要録の改訂を踏まえ、今後は4技能の育成について教授方法を検討する。また、理系地理・公民選択の位置づけや方針の共通認識を図り、よりよい受験指導につなげる。
			課外活動や小テスト等で基礎学力を定着させ、過去の入試問題を多用し、応用力を養成す ①②③⑤	A		
	数学	基礎力の向上に努める。	習熟度別少人数指導により、学習意欲を喚起し、基礎力の養成を徹底する。 ①②③	A	B	・模試の効果的な活用方法 ・大学入試共通テストを意識した定期考査の作問 ・学習内容（単元）の学習順序の効率化 ・平常課外の充実
			教科内で教科・指導法等について研究協議する。年間の指導計画に基づいて、週末課題や小テストを実施し、基礎力の定着を図る。 ①②③④	B		
		上位層の育成を図る。	習熟度別少人数指導と平日課外、土曜課外、個別指導等を活用し、応用力の養成に努める。 ①③⑤	B		
	理科	普段からの学習定着度の把握と起伏有る授業展開を実践する。	「分かる喜びを実感する授業」改善のため、普段から小テストや提出物等を行い、学習内容の定着度や理解度の把握を行う。 ①②	A	B	・「共通テスト」に対応した学力をつけさせるため、実験方法を考えさせる、或いは改善させるなど必要か。 ・成績下位者へのケア
			実験やデジタル教材、アクティブラーニングの導入など起伏有る授業展開と、その指導研修のための研鑽に務める。 ②③	B		
	英語	課題の工夫と実力向上、個に応じた学習指導	ICTを活用し、アクティブラーニングを取り入れるなど、日々授業改善を行いながら、適切な教材を提供し、基礎学力、実力を養成する。 ①②③	B	B	共通テスト、外部検定試験利用入試に対応できる4技能の強化。授業におけるライティング・スピーキングの指導や評価方法を共有し、習熟度・生徒のニーズに合わせて課外を充実させる。検定試験にも積極的に取り組ませて入試に
少人数授業や課外授業を活用し、学習意欲と確かな学力の向上を図る。 ③⑤			A			
模試やGTEC、英語検定など外部検定試験に向けて、指導の充実を図り、成績向上を目指す ③⑤			A			
保健体育	基礎的運動能力、体力の向上を目指す。	持久走の単元を生かして、有酸素運動能力の向上を目指す。 ①②	A	A	・運動習慣の定着とその評価 ・体力向上の継続（特にボール投げと握力の向上） ・体育活動の中での思考力・判断力を向上させる指導とその評価	
		体ほぐし及び身体づくりの運動を各単元において継続的に取り入れ、上肢と体幹の筋力の向上を目指す。 ①②				B
	自ら運動に取り組む習慣を身に付ける。	運動と健康のつながりを理解させるとともに、選択授業の中で生徒主体の活動を促し、運動習慣の定着を図る。 ①②	B			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教科	芸術	芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、生涯にわたり芸術を愛好する心情を養う。	創造的な能力を高める表現や鑑賞の学習課題を工夫し、生徒の個性を重視した少人数指導により、個々の生徒の感性を伸ばす。 ①②③	A	A	芸術鑑賞の時間を確保する。専門性を重視した個別指導の継続。
	家庭	これからの時代を生きる生徒が希望を持ち、たくましく、よりよく生きる力を身につけることを目指す。	生活する上での様々な課題を主体的に理解させ、自立して生活できる実践的な態度を養う。 ①②	A	A	対話的で深い学びができるような授業を展開していくことが課題である。
			実験・実習を多く取り入れ、基本的な技術や技能の習得を目指す。 ①②			
情報	情報活用能力の向上を図る。コミュニケーション能力の向上を図る。	実習を多く取り入れ、情報リテラシー能力やコミュニケーション能力等の情報活用能力を向上させる。パソコン等情報機器に対する操作技術の向上を目指す。 ①②	A	A	より専門性の高い実習授業の展開が求められる。ICT活用能力の向上が課題となる。	
学校運営	進学重視型単位制の効率的展開と業務の改善	多くの教員を活用できるという単位制のメリットを最大限生かすため、各教員の役割分担を明確にするとともに、校務分掌間、年次間、教科間の連携協力を一層推進していくことで、業務の軽量化・効率化につなげていく。 ①～⑩	B	B	・二人担任制の廃止に伴い、担任・副担任がそれぞれの役割を明確化するとともに、学校組織のさらなる活性化を図る。 ・教職員一人一人が課題意識を持ち、新テストに向けた取組を進める。 ・引き続きWebページの迅速な更新とマスコミを利用した広報活動を通して積極的に情報を発信する。 ・より計画的な中学校訪問、を実施することで、さらなる志願者数の増加に繋げる。また、PTAとのより一層の連携を推進する。	
		本校の課題を解決するために、マネジメントプロセスを全職員で共有する。 ①～⑩	B			
学校運営	開かれた学校づくりの推進	Webページの迅速な更新、マスコミ等を利用した広報活動を通じて積極的に情報を発信し、本校をPRしていく。学校評価を通じて、保護者、地域社会との連携を深めるとともに、教育活動の改善を進めていく。 ①～⑩	A	A		
		計画的に中学訪問を実施することで近隣中学校との信頼関係を構築する。学校説明会や学校公開などを通じて教育活動を積極的にPRし、さらなる志願者数の増加に努める。学校行事(亀陵祭・歩く会)ではPTAとの連携協力を進め、一層の信頼関係を醸成する。 ①～⑩	A	A		
教務	業務の効率化等による円滑な教育活動の支援と授業の充実による学力向上	業務の効率化等により教員の負担を軽減し、日常の教育活動が円滑に進むよう支援する。また、生徒が主体的に学ぶことができるための授業の改善や少人数授業、習熟度別授業等の成果を検証し学力向上を図る。 ①②③	A	A	・新任の先生方に対して、教務主催で校務支援システムの講習会を開く必要がある。 ・引継ぎを考慮して、文書を一か所にまとめ、情報をサーバーに保存して全員で共有できるようにする必要がある。 ・係によって係分担(当番)が機能していなかったため、人数の配当を少なくして少人数で責任をもって担当するようにする。	
	進学校に適した教育課程の編成と観点別学習状況評価の研究	学習指導要領の改訂を見据え、単位制進学校に適した教育課程の研究と編成にあたり、観点別学習状況評価の手法や内規についての研修を通し、その改善・充実を図る。 ①②③④	A			
	情報機器の安定的な運用及び情報セキュリティの管理を行い円滑な校務運営と積極的な情報発信を行う。	教務支援システムの安定的な運用と不具合への対応を実施する。乱雑になってしまったサーバー内のフォルダを整理し、アクティブディレクトリの特徴を生かしたアクセス権の細かい設定を通してわかりやすいフォルダ構造とセキュリティを両立させ、業務を効率的に運営できるようにする。 ①②⑩	B			
	入試広報活動の充実	魅力ある「スクールガイド」や「学校紹介文」を作成し、中学生の本校への興味・関心を高め、茨城県進学フェア・学習塾の説明会への参加や、中学校・塾訪問を通して中学生や地域への広報活動を推進する。 ①～⑩	A			
	地域との連携を目指した広報活動の充実	学校広報誌「泰山木」やホームページを通して、地域に適切な情報提供を行う。 ①～⑩	A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
生徒指導	規律正しい生活態度の確立	服装・頭髮指導の徹底と、早朝登校をうながし、自立した生徒を育成する。 ⑦⑧⑨	B	B ・一部生徒の交通（歩行時・自転車・バイク）に関するマナーの悪さが指摘されたので、次年度は地域住民から応援してもらえるようなマナーアップを目指して、啓もう活動に努めたい。 ・職員間での指導の差が出ないように、共通認識を図り、協力を得られるようにしたい。
	マナーの向上(交通・挨拶など)	PTA・警察と連携して、通学路の立哨や交通安全教室を通して交通マナーの向上に努める。 ⑦⑧⑨	B	
		朝の登校立哨・あいさつ運動などを通して、マナーを向上とコミュニケーションの充実を図る。 ⑦⑧⑨	A	
		スマートフォン利用のルールを設定し、SNSなどのトラブルに巻き込まれないように注意を促す。 ⑦⑧	A	
進路指導	キャリアを意識した人生プラン、生活プランの設計を促す指導	生徒が自らの進路に対する強い目的意識を持って主体的に「年次+2時間」の学習時間を確保した生活ができるよう、総合的な学習・道徳教育・各種行事等を通して生徒のキャリアプランニング能力を育成する。 ④⑤	B	B ○キャリア教育の更なる推進 ・生徒の実態に即した各種進路行事の見直し、事前・事後指導の充実 ・文理別及び成績層別指導など、生徒の特性にマッチした指導 ・主体的に家庭学習に取り組む態度の育成(家庭学習時間:年次+2時間) ○志望大学の合格率の向上 ・生徒のキャリア形成にマッチした第一志望への合格率向上はもろんのこと、特に、国公立大学、GMARCH以上の合格率の向上 ・進路選択のミスマッチをなくし、最後まで粘り抜く生徒の育成 ・英語外部検定試験、高大接続関係への対応
	生徒一人ひとりが高い目標設定することを前提とした環境整備、学習機会の提供・情報提供に努める	継続的・計画的な個人面談を実施するとともに、年次・教科・学校全体など多様な形態で生徒の進路指導に携わることで、生徒のキャリア形成・学力向上に寄与する。 ②③⑤⑥	A	
		生徒が主体的に学び合い刺激し合うことのできる学習環境の整備につとめるとともに、進路だより等を通じて向上心を備えた意欲的な進路選択を促すための情報提供を行う。 ①④⑤	B	
		実践的な学力の向上及び苦手克服からの自信確立のための課外の設置、フィードバック・チャレンジ機能としての適切な模試の設定を行うとともに、これらを利用した進路指導の充実を図る。 ①⑥	A	
進路表現を目指すための学習指導の強化・充実を図る	理数科目の学力向上と指導の充実、および大学グローバル化への対応に力点をおいた学習指導を展開することを目指す。また、小テストや週末課題の効果的設定による基礎学習の定着をはかるとともに、成績上位者の更なる伸長を目指したエキスパートプログラムを展開させる。 ③⑤⑥	B		
特活指導	学校行事への自主的、自発的な参加	生徒会が中心となり、HRや委員会の意見を聞き入れながら、生徒一人一人が自主的、自発的な行動で学校行事に取り組む。 ⑦⑧⑨	B	B ・生徒会や各クラスの委員が中心となり、各学校行事を企画、運営ができるように支援をする。 ・今年度以上に各個人、各団体が校外への活動にも目を向け、積極的に参加し、地域との交流を一層深める。 ・茨城国体（常総市）に向けた取り組みや協力体制の下準備を行いながら、委員会の活性化にも発展させる。
	委員会・ボランティア活動の充実	定期戦、亀陵祭、野球応援を通して、学校の一員として自覚と責任を持ち、愛校心を深める。 ⑦⑧⑨	A	
		各種委員会では、年2回(前期・後期)の委員会を中心に、学校行事との関連性をより深められる活動計画を立て、年間を通じた活動から活性化を図る。 ⑦⑧⑨	B	
		ボランティア活動を普及させ、異年齢集団による交流や地域の社会づくりに参画する。 ⑦⑧⑨	B	
保健厚生	生徒の健康保持及び増進	熱中症や食中毒及びインフルエンザ等の感染症の予防対策を推進する。 ⑨	A	A ・清掃の徹底及びごみの分別への理解と協力を促し、一層の校内美化に努める。
		保健室入室者の現状を把握し、保護者・関係職員との連携を図る。 ⑧⑨	A	
		薬物乱用防止講演会や防火防災避難訓練などを通して生徒の安全を図る。 ⑨	A	
	教育環境の整備	清掃の徹底とゴミの分別など環境美化活動を推進する。 ⑦⑨	B	
		エアコンの効率的な運用の徹底を図る。 ⑨	B	
生徒厚生の充実	奨学金事務等の周知及びその処理を円滑に実施する。 ⑤	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題		
渉外	PTAの活性化を図る	PTA総会・支部総会等の出席率をアップさせ、本部役員を中心に会員全体が協力し、充実したPTA活動の実施に努める。	①～⑩	A	・サタデー学習会の内容の検討。 ホームページの充実。	
	サタデー学習会・各行事の充実	サタデー学習会や各行事等における保護者への積極的な呼びかけにより、保護者の意識を高める。	①～⑩	B		
図書	図書環境と出版物内容の充実	常時開放と常時閲覧、生徒の調べ学習の援助、良書・新刊図書の紹介。蔵書充実を図る。 定期戦「号外」「亀丘時報」、出版委員会『済美』の発行。	①～⑩	B	B	・図書室環境の更なる整備及び蔵書資料の充実・センターホール設置の新聞の継続・学校司書の配置
教育相談	教育相談の体制と有効活用を図る	年間20回の教育相談を実施することで、これにかかわる支援と問題解決に努める。	①⑦⑧⑨⑩	A	A	今年度は教育相談部長が特別支援教育を兼務したが、次年度は未定であるため、適任者を選任すること。教育相談室の設置を要望。ソーシャルワーカーの位置づけを総合的に考える時期である。
		教育相談後の連絡協議とその対策・指導と助言を徹底する。	①⑧	A		
	特別支援体制を整える	特別支援を求める生徒・保護者・教員に対して、情報の共有と「報・連・相」の徹底により、適切に対応に努める。	①⑦⑧⑩	A		
		特別支援に関する研修会を実施する。	⑧	A		
第1年次	基本的な生活習慣の確立	HRを中心に、学校生活の規律を徹底し、規律正しい生活が送れるようにする。	⑦⑧	A	A	ほとんどの生徒は遅刻欠席が少なく、おおむね規則正しい生活をしている。その一方で学校生活に適応出来ずに病んでしまう生徒への対応が必要である。
		個人面談等を通して生徒の生活状況を把握し、個に応じた生活指導を行う。	⑦⑧	A		
	基礎学力の向上と学習意欲の向上	日々の授業を大切にす姿勢の徹底を図るとともに、Classiを利用して生徒の学習状況を把握したり、的確な学習課題を与え、学力の向上を図る。	①～⑥	B	B	課題の未提出者が少なくはないこと、Classiで問題を発信してもそれを利用する生徒が少ないこと等、このあたりは改善が必要か。また、学習意識の高い生徒に対する指導はその時は成果があるが、持続性がなくすぐに楽な方へ流れる生徒が多い。継続的な指導が必要。
		家庭学習時間の少ない生徒には、主任面談等を行い、学習意欲の喚起を図る。	①～⑥	B		
		学習意欲や進路意識の高い生徒に向けた勉強会を実施し、上位の学力層の育成を図る。	①～⑥	A		
		適切な学習課題を設定し、予習復習の大切さを認識させ、家庭学習時間の確保を図る。	①～⑥	B		
	自己理解の深化と将来像の明確化	進路指導の中で自己理解の深化を図り、将来像を明確にする。	⑤⑥	B	B	将来の大学進路を考える前に、職業を研究する時間を多く取り入れることで、大学進学へのモチベーションを高める必要がある。
		総合的な学習の時間(道徳)やLHRを計画的かつ効果的に進め、よき生き方を模索させる。	①～⑥	A		
第2年次	個に応じた進路指導の徹底	個人面談を通して進路希望や学習状況を把握し、個に応じた進路指導を展開する。	①～⑥	A	B	より高い進路希望を維持させるとともに、予習復習を前提とした高いレベルの授業を展開していく。
		学力に応じた課外授業や補習授業を充実させるとともに、より高い進路目標を徹底させていく。	①～⑥	B		
	学習スタイルの深化	一人一人の学習状況を把握し、毎日の授業を大切にす姿勢の徹底を図る。	①～⑥	A	B	生徒自身の現状から、志望校に合格するために必要な学習量を適切に提示し、受験生としての学習習慣を年度当初に身につけさせた上で、3年次がスタートできるようにする。
		学習時間の少ない生徒や成績下位層の生徒に対して主任面談を行い、学習意欲の高揚を図る。	①～⑥	B		
		それぞれの成績層に対応した学習指導を行い、各層の学力の向上に努める。	①～⑥	B		
		家庭学習のための課題を設定するとともに、主体的に学習する時間を確保させる。	①～⑥	B		
	自律ある学校生活の展開	後輩の模範となるべく自覚を促し、学校行事への積極的な参加やHR活動の充実を図る。	⑦～⑨	A	A	最終年次として、進路目標の達成を最優先に考えさせた上で、規律ある生活が送れるようなサポート体制を構築する。
		保護者と緊密な連携を図り、自己の進路希望の実現に向けて、生活習慣を再構築させる。	⑦～⑩	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
第3年次	進路希望の実現を目指した進路指導の徹底	個人面談を計画的に進め、生徒一人ひとりが抱えている課題を把握しながら、適切なアドバイスを施し、最後まで諦めさせない指導を展開する。 ①～⑥	A	特別編成授業のスタイルを再検討し、場合によっては特編授業の廃止も必要かと思われます。また、各大学で推薦・AO入試の入学者を増やしている現状と推薦・AO受験を希望する生徒の増加を考えると、推薦対策と合格後の対応を年次だけではなく学校レベルで検討していく必要があると思います。また、3年次ではより時間の確保が大切になってくる面談期間が他の行事等により上手く確保できなかったため、今後は最優先事項として計画していただきたいと思
		学習状況調査等から生徒の実態を把握し、合格に必要な計画的・主体的な学習スタイルの確立を促す。 ①～④	A	
		進路希望に対応した課外や個別指導、進路行事を効果的に行い生徒を鼓舞し学力向上を支援する。 ①～⑥	A	
		担任間・クラス間・教科間等の教員間での情報共有を徹底し、常に全体で生徒を見ていく姿勢で対応していく。志望校分析会を保護者面談前に実施し、より適した進路先を検討していく。 ⑤⑥	A	
		保護者への進路情報の提供を密に行い、進路希望実現に向け年次全体で連携を深める。 ⑤⑥	A	
	自律ある学校生活の育成	最終年次としての自覚を持ち、学校行事への積極的な参加やHR活動の充実を図る。 ⑦～⑨	B	B
		生活習慣を常に見直しする機会を設け、受験期であるからこそその規律ある生活リズムの大切さを意識させる。 ⑦～⑨	B	
		面談や情報交換から、生徒の問題行動や悩みなどの早期発見を心がけ、関係各部と連携し解決を図る。 ⑦～⑨	A	

※評価基準 A:十分達成できた(達成度80%以上) B:概ね達成できた(達成度60～79%) C:やや不十分(達成度40～59%) D:全く不十分(達成度39%以下)